

【巻頭緒言】

真の国際交流

北里大学 医療衛生学部
学部長 北里 英郎

近年、日本において、国際化やグローバル化が盛んに、唱えられています。医療衛生学部で、20年以上の歴史を持つ、Thomas Jefferson University (TJU) との国際学术交流は、単にお互いに学生を交換するだけでなく、両大学間の深い友情と信頼関係に基づく、極めて充実した制度となっています。

平成 26 年度は、特筆すべきこととして、国際交流協定書のサインと今後の両大学の相互理解のために、平成 27 年 3 月 15 日(日)から 18 日(水)までの間、関連学科専攻と私の教員計 6 名が TJU を訪問致しました。新しい協定書は、現代の両大学の状況に即した形に改められ、16 日のサインセレモニーは、20 年以上の歴史を持つ両大学の新たな歴史のはじまりとなりました。協定書の作成にあたりましては、TJU の Prof. Susan Toth-Cohen を中心とした方々、本学の国際交流委員会の教員がご尽力いただきまして、厚く御礼を申し上げます。今回の訪問の間に、TJU 保健学部長、Prof. Janice Burk を筆頭とした、TJU 側の本国際交流に対する熱意を改めて感じ、式典終了後、和やかな雰囲気でのレセプションが、レストラン「ペンシルバニア 96」で、開催され、TJU-Kitasato が一体となり、美酒と素晴らしい食事を堪能し、強固な信頼関係を確立致しました。

国際交流の詳細は、後述の報告書をご覧頂ければお分かりになりますが、言葉の壁、意思の疎通、異なる文化に戸惑いながらも、お互いの学生同士が、工夫を凝らし講義やセミナーに参加し、交流を深め、学生達が何を感じたが良く書かれています。

今後とも、TJU-Kitasato の国際交流が両学部の厚い信頼関係の上に、さらに発展し続けることを願っております。



おわりに

医療検査学科
病理学 大部 誠

2014年度北里大学-トマス・ジェファーソン大学 (TJU) 交換留学を振り返ってみて、特筆すべきは何と言っても TJU で契約更新調印式が行われたことです。これは学部長北里英郎先生の強い希望で実現しました。先の契約書の有効期限は2009年3月から5年間、すなわち2014年3月までであり、昨年3月に契約更改が行われていたはずでした。当初、前回の契約内容を、一部、現実に即した内容に変えるだけでよい、と考え、改訂版を TJU に送付したところ、大幅に改訂された内容が送られてきて、当方としては承服できかねる内容も多々ありました。そこで、国際交流委員会の先生方と意見交換しながら、何回か TJU と交渉を行いました。TJU では法律専門部局があり、ここをクリアしないと次へ進まない仕組みになっております。特に、犯罪歴の有無については厳しい対応でした。一応、双方ともに契約破棄の意志がなければ契約を自動継続する、という一文が契約書にありましたので、2014年以降も自動延長という形で推移しておりましたが、中々契約更改ができない状態が続いていたため、先方に、2015年3月に北里学部長が契約更改のために TJU 訪問を希望している、と伝えたところ、ようやく膠着状態から脱却でき、当方の希望する内容をほぼ受け入れてくれました。これには TJU OT の Susan Toth-Cohen 先生が大変尽力してくださり、法律部局に日本の事情を良く説明してくれたことが大きく影響しています。

契約更改の様子は ML 学生の報告書の写真にもありますように、2015年3月16日、北里学部長と TJU 保健学部 学部長 Janice Burke 先生との間で厳かに行われました。当初、学部長室で簡素に行われるものと思っておりましたが、立派なセレモニーとしての体裁を整えてくださり、記念写真撮影も行われ、調印式に相応しい雰囲気が出されました。この交換留学に対する TJU の意気込みを十分に感じとれた一コマでした。このセレモニーには北里先生の他に、PT 上出直人先生、OT 高橋香代子先生、CE 熊谷 寛先生、RT 原 秀剛先生、そして ML の私も参加させていただきました。ML としても大きな収穫がありました。と言いますのも、長年、この交換留学に尽力していただいた臨床細胞学教授の Shirley Greining 先生が2014年12月をもって定年退官され、新たにバイオサイエンス学科の責任者として Barbara Goldsmith 先生が就任され、Barbara 先生とお話しできたことは今後の交換留学の運営にとって大きな意味を持ったものと思われまます。

研究者の留学と違い、学部学生の交換留学は、その目的が曖昧になりがちですが、継続することによって新しい展開も生まれてくるものと思います。契約更改を契機として、国際交流委員会のメンバーが智慧を出し合って、次のステージに向けて、この交換留学制度が発展することを願って止みません。